

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月31日

協議会名: 東京都離島航路地域協議会

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
神新汽船株式会社	神津島～下田	事故なく安定した運航が実施できた。また、「フェリーあぜりあ」の公衆無線LAN環境を整備し、サービス向上を図った。	A 荒天による欠航以外は、計画通り運航でき、事業は適切に実施できた。 運航回数:計画317.0回→実績261.0回(計画比82.3%)	B ・旅客輸送人員:計画人員9,736.0人→実績8,063.0人(計画比82.8%) ・自動車輸送台数:計画台数738台→実績521台(計画比70.6%) ・新型コロナウイルス感染症の影響等から回復傾向となるが、目標を下回った。	「フェリーあぜりあ」として就航10年の節目となるが、引き続き安心して安定した運航の継続と旅客、自動車輸送台数の拡大に努め、航路運営のサービス改善・収支改善を図る。
東海汽船株式会社	東京～八丈島航路	新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行したことで、旅客輸送人員は12,582人増加となる85,864.5人(昨年比117.1%)となった。 主な区間の増減は、東京～三宅島間が6,557人増、東京～御蔵島間が4,201.5人増、東京～八丈島間が1,086人増となり、各島で増加した。	A 安全運航に努め、航路事業を適切に実施した。運航回数では計画数365回に対して悪天候等による欠航数が14.5回あり、就航回数は350.5回(計画比96%)となった。なお、3,4,5,7月は欠航数0回であった。	B 旅客輸送については、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したが、コロナ禍前の水準には及ばず、旅客輸送人数は85,864.5人(計画比83%)、旅客運賃収入は785,658千円(計画比98.4%)となった。 一方、貨物輸送量は50,706.6トン(計画比108.6%)となり、堅調に推移した。	ECサイトを通して東京諸島の魅力・特産品を発信していくことで、物流の活性化を図る。 加えて、島しょ地域はポストコロナ時代に安心・快適に余暇を過ごすことが出来る「ヒーリングアイランド」として価値の向上が見込まれる。これを魅力的なコンテンツとしてPRし、輸送人員の拡大を図る。
伊豆諸島開発株式会社	八丈島～青ヶ島航路	年間を通して、同じダイヤおよび旅客定員により安定的な運航を行った。	B 荒天による欠航の影響を受けたものの、概ね計画通り運航し、事業は適切に実施された。(運航実績154.5回／運航計画238.0回、就航率64.9%)	A 旅客輸送人員は、計画人員2,362.0人に対して実績は2,232.0人(計画比94.5%)となった。	島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。
伊豆諸島開発株式会社	父島～母島航路	年間を通して、同じダイヤおよび旅客定員により安定的な運航を行った。	A 荒天による欠航の影響を受けたものの、概ね計画通り運航し、事業は適切に実施された。(運航実績266.0回／運航計画283.0回、就航率94.0%)	A 旅客輸送人員は、計画人員22,059.5人に対して実績は21,001.5人(計画比95.2%)となった。	島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。